

止まらない・つまづかない・失敗しない
サイトの移行作業の進め方がわかる!



text: 梅垣まさひろ(124ページ～131ページ)

レンタルサーバー 引っ越しの手引き

今使っているレンタルサーバーのスペックや価格、サポートにあなたは本当に満足しているか？不満はあるけど、いざサーバーを乗り換えるとなると乗り換え作業の煩雑さなどに漠然とした不安を感じて、躊躇しているというのが実態ではないだろうか。そんな不安を根本から解消する「引っ越しテク」を大紹介！各レンタルサーバー事業者にも乗り換えにまつわる特典やサポート状況を確認したので、併せて参考にしてほしい。

レンタルサーバーを乗り換える“理由”

専用線に自社サーバーを使うという時代が急速に終わりを告げ、レンタルサーバーを借りて運用するというのがトレンドになっている。自社サーバーはハードウェアのメンテナンスが面倒だし、管理者の負担も大きい。結局、レンタルサーバーのほうが総合的にコストパフォーマンスがよいというのが事実だ。

しかし、利用しているレンタルサーバーのサービスが用途にぴったりはまっている間はいいが、画像を多く使う、アクセス数の急増といった理由で容量や回線スペックが物足りなくなったり、サポートに不満を感じたり、別の機能を使いたくなったりしたときに、今借りているサーバーではもうダメだという場合がある。たとえば、これまでメールリングリストが必要なかったのだが、必要になって調べてみたら契約しているサービスでは使えないなんてことがある。あるいは、データベースを使いたくなってきたのだが利用したいデータベースがインストールされていないということもあるだろう。共用のレンタルサーバーを使っているために、機能面での制約が大きい点が問題になることもある。そんなときには、どうしてもサーバーの「引っ越し」を考えざるをえない。

そこで、レンタルサーバーの引っ越しにまつわる問題と注意点をまとめてみた。

Case 1

今のサーバーじゃ容量や回線が不足

対策

今使っているレンタルサーバーにオプションでディスク容量や帯域を追加したり、上位のサービスに乗り換えられたりするとベター。できれば引っ越したい。

Case 2

サポートに不満

対策

サポートが不満なら乗り換えは必至。サポート重視で別のレンタルサーバー会社を探し出そう。

Case 3

もっといろんな機能を使いたい

対策

オプションの追加ができるかどうかを検討。それがダメなら引っ越ししかない。

その他の理由

- ・とにかく安いところに引っ越したい
- ・もっと管理の簡単なところがいい
- ・ウィンドウズサーバーで特別なプログラムを動かしたい
- ・LinuxよりFreeBSDが好き
- ・バックアップをこまめにやってくれるところがいい
- ・複数ドメインをまとめて専用サーバーに移したい
- ・自社サーバーをレンタルに移行したい

こんな場合の「引っ越しテク」はこれだ! ▶▶▶▶

基礎編

用語も仕組みもこれでバッチリ! 「レンタルサーバー」を熟知しよう

基礎編では、レンタルサーバーを利用するうえで最低限必要となる用語や仕組みを理解しておこう。ポイントは、共用・VPS (Virtual Private Server)・専用サーバーの違いだ。今使っているサービスがどれで、乗り換え先のレンタルサーバーがどれかをまずは知っておきたい。さらに乗り換え作業ではドメイン名とDNS管理の仕組みに関する知識が不可欠になる。

カタログ読解の基本 「共用」と「専用」 価格で選ぶか自由度で選ぶか



もっとも手軽に使えて価格も安いのが「共用」型のレンタルサーバーだ。1台のサーバーマシンを数十から数百のユーザーで共有して使う方式だ。このタイプでは、メールとウェブを基本に据えたサービスになっている。メールのアカウント数やウェブに割り当てられるディスク容量などが決められていて、一定の制限をかけているのが普通だ。また1か月のデータ流量(転送量)の上限が決められていて、それを超えるとより価格の高い上位のサービスへの乗り換えを求められることもある。CGIやデータベースなどを使える場合もあるが、それらも共用なのでスループットや自由度に関しては、あまり大きな期待はしないほうが良いだろう。一定のメールアカウント数が確保できてウェブサイトが置ければ、むしろ価格を重視したいというユーザーに向いていると考えられる。また、機能が限られているぶん、管理は簡単だ。

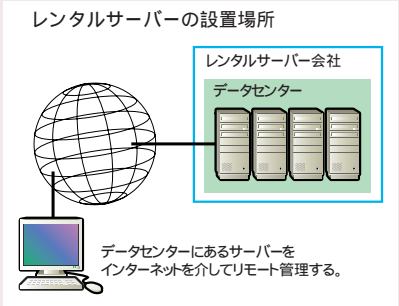
ていいだろう。もちろん、占有しているわけだからCGIを動かすにしても、データベースを使うにしても、その性能は100パーセント自分だけで利用できる。ただし、費用はどうしても高くなってしまふ。

いいとこ取りのVPSを使った レンタルサーバーがオススメ

「共用」の価格の安さと「専用」の自由度の高さを両方実現したのが、VPS(Virtual Private Server)を使ったレンタルサーバーだ。VPSは実際には「共用」の方法の一つなのだが、仮想OSを用いて共有している各ユーザーにあたかも専用サーバーを使っているような使用環境を提供するものだ。共用型であるにもかかわらず、仮想のroot権限が与えられるし、サーバーの設定も変更できる。ソフトウェアのインストールも、専用型と完全に同じとはいえない

レンタルサーバーの定義

サーバーの「機能」を貸し出すのがレンタルサーバーだ。メールとウェブが使えるのが基本。サーバーはその会社のデータセンターに置かれているので、ユーザーはインターネット経由でサーバーを管理する。

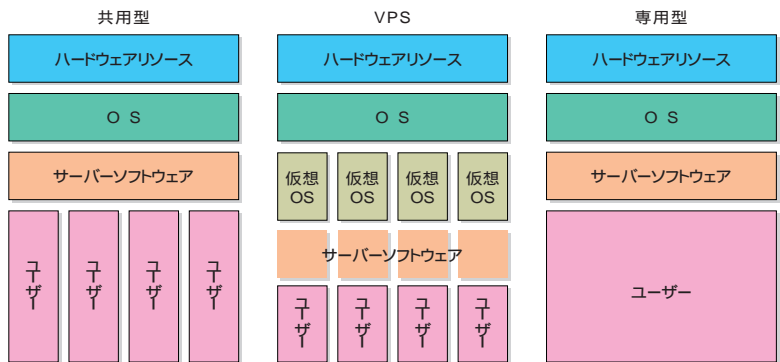


がほぼ問題ない。価格は、ちょうど共用型と専用型の間に位置している。専用型からのコスト削減、共用型からの機能と性能のアップにはVPSが最適だ。

「専用」は自由度が高いが コストもかかる

一方、「専用」サーバーは、サーバーマシンを1台丸ごとユーザーに貸し出すサービスだ。ほとんどの場合、アカウントなどのリソースの制限はなく、搭載されているハードディスクの許す限りデータを置ける。また管理者権限(root権限)がユーザーに与えられるので、サーバーを好みの状態にカスタマイズしたり、新たにソフトウェアをインストールしたりといったことも可能だ。共用型のような制限はほとんどないと考え

レンタルサーバーの種類による違い



1台のサーバーを複数のユーザーで「シェア」する。あるユーザーのアクセスが高いと全体の性能が落ちる。

仮想OSがあるので、各ユーザーは自分専用のサーバーのように使える。各リソースの配分も管理される。

サーバーマシン1台を1ユーザーが占有するため、他のユーザーに左右されずにサーバーを管理できる。



引っ越し作業に不可欠 レンタルサーバーとドメイン名 そしてDNSの仕組みを理解する

レンタルサーバーを使ううえで欠かすことのできない知識が、ドメイン名とDNS(ドメインネームシステム)だ。ドメイン名とは、インターネット上に唯一割り当てられたサーバーの名前であり、利用者はドメイン名を見てサーバーを識別する。たとえば、インプレスのウェブサイトのURLは「http://www.impress.co.jp/」だが、このうち「impress.co.jp」の部分をドメイン名と呼ぶ。「www」はホスト名で、これを結合した「www.impress.co.jp」はFQDN(Fully Qualified Domain Name: 完全修飾ドメイン名)と呼ばれる。自分のドメイン名を持ちたい場合は、独自ドメイン名の割り当てを受ける方法と、レンタルサーバー会社などがあらかじめ持っているドメイン名のサブドメインを借りる方法がある。

ドメイン名とメール配送の根本にあるDNSの役割

これらのドメイン名を管理するのが、DNSの役割だ。DNSは、FQDNで指定されたホストとIPアドレスの関係を管理するデータベースと、そのドメイン名を持つユーザーにメールを送信するときに使うべきホストを管理している。ドメイン名の管理を一手に引き受けているもっとも大事なものだ。DNSを誰が管理し、どう設定するか(あるいは設定できるか)はレンタルサーバーを利用するときに重要なポイントになる。

専用型のレンタルサーバーではDNSの設定を変更して、新しいエイリアス名を追加したり、仮想ドメインを導入したりできる。「http://www.impress.co.jp」と「http://internet.impress.co.jp」という2つのURLを用意して、それぞれにウェブサイトを提供するといったことが可能なのだ。共用型のレンタルサーバーの場合にはDNSの設定は初期状態のままで、このような変更ができる可能性は低い。

ドメイン名の構成要素

独自ドメイン名を取得する場合

www.usersepcificdomain.com
www.userspecificdomain.co.jp
www.userspecificdomain.jp

ここがホスト名。専用サーバーなら好きな名前が付けられるが、共用サーバーの場合はns、www、mail、ftpなどのホスト名があらかじめ設定されていて変更できないことが多い。

ドメイン名のうち、あらかじめ決められている.com、.co.jp以外の部分(ここではuserspecificdomainの部分)は自由に命名できる。もちろん、すでに登録されているドメイン名は取得できない。

サブドメインを借りる場合

www.usersepcificdomain.rentalserver.com

ホスト名

この部分(サブドメイン)だけが指定できる。

レンタルサーバー会社などの所有しているドメイン名。

独自ドメイン名とサブドメインのメリット・デメリット

< 独自ドメイン名 >

- ・短くてシンプルな名前が付けられる。
- ・正式なドメイン名を取得しているという安心感をアクセスしたユーザーに与えられる。
- ・ホストのエイリアスを自由に増やせる。
- ・メールアドレスが自由に設定できる。

< サブドメイン >

- ・ドメイン維持費がかからず低コスト。
- ・DNSの管理などの手間がない。
- ・URLが長くなりやすい。

ドメイン名の申請から運用までの流れ

ドメイン名の申請はレンタルサーバー会社にサーバーの契約と一括で頼んだほうが楽だが、ドメイン名の管理を別のレジストラ(ドメイン名の登録・管理を行う組織)にしておくと、サーバーを引っ越すときドメイン名の移管作業をせずに、レジストラのDNSの設定変更だけで対処できるメリットがある。ただし、これはレンタルサーバー会社が外のDNSでサーバーでのドメイン管理を許している場合だけ。また、レンタルサーバー会社一括で依頼した際に、取得したドメイン名の所有者が自分になるかどうか引っ越しを考えると大事な点だ。

レンタルサーバー会社とは別のレジストラで取得する場合

レジストラでドメイン名を取得する

レンタルサーバーの準備を進める

レジストラにDNSの設定を依頼する

レンタルサーバー会社一括で依頼する場合

レンタルサーバー会社にレンタルサーバーとドメイン名を一括で申請

実践編

不満を感じたときが替えどき レンタルサーバーを乗り換えよう

引っ越しが決まったら、移行作業の計画を立てよう。乗り換え前の準備、移行スケジュールの立案、新サーバーのスペックの確認と契約、移行作業と動作確認などやるべきことは少なくないが、段階を追って計画すればミスは排して、スムーズな乗り換えが可能になるはず。さあ、引っ越し大作戦のスタートだ。

引っ越し第一段階 綿密な計画と準備が スムーズな乗り換えの決め手

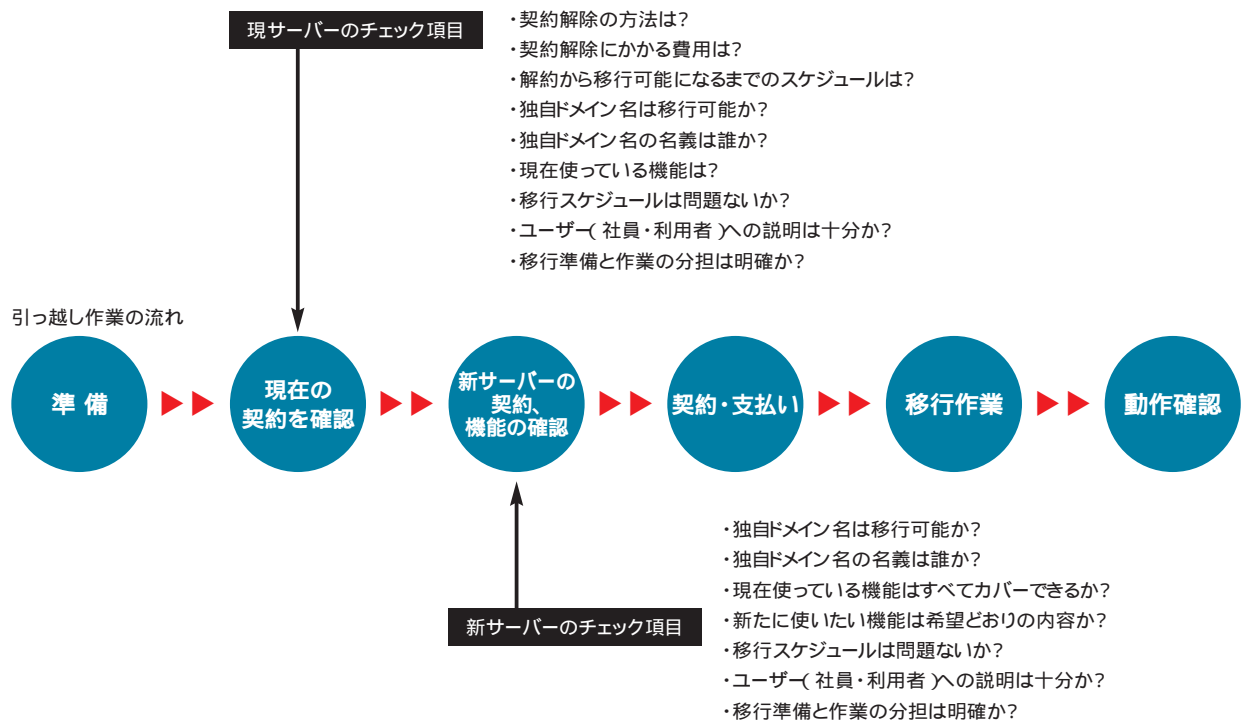


引っ越しが決まったら、まず全体の作業の流れを理解して、準備をスタートする。最初にチェックするのは、現在使用中のレンタルサーバーの契約条件だ。特に、契約時点では先を見越して解約のことまで考えていないことが多いので、よく確認しておきたい。解約の意思を表明してからどういうスケジュールで作業が進むのかによって全体のスケジュールが大きく変わってしまうからだ。

契約条件が確認できたら、今度は新しく選んだレンタルサーバーの契約条件や機能などをチェックしよう。移行してから、「ある機能がよくなかった」「制約があつてうまくいかなかった」と後悔しても遅い。これを回避するためには、具体的に内容を確認しておく必要がある。レンタルサーバー会社のウェブサイトなどで確認するだけでなく、懸念される点は契約前にメールで確認しておきたい。

契約を終えて支払いを済ませれば、旧サーバーを動かしたままでもある程度は移行作業が始められる。作業の流れをよくつかんで、効率的に進めたい。作業が完了したらDNSの設定を変更し、サーバーを切り替える。もっとも緊張するところだ。動作確認を念入りに行ってうまく動いていることが確認できれば、めでたく引っ越し完了だ。もちろんうまく動かないこともあるので、スケジュールには余裕を持とう。

移行計画チェックリスト



現在利用中のサーバー総点検

契約内容を確認しよう🔍

引っ越しの最初の作業は、現在利用しているレンタルサーバーの契約内容の確認だ。契約時に取り交わしたはずの契約書を引っ張り出してきて読み直したり、ウェブサイトなどで解約の条件などを確認したりしよう。半年契約、1年契約などになっている場合には、都合のいいタイミングで契約を解除すれば無駄なコストも最小限に抑えられる。移行作業をスムーズに行うためには、サーバー稼働状態の確認や、ユーザーの移行作

業担当者の仕事の調整も必要だ。また、社内の意思決定とネゴ、社員あるいは関係者への移行作業に関する説明に思わぬ時間をとられる可能性も想定しておきたい。

事前に確認しておきたいこと

- ・ 解約の諸条件
- ・ 解約と移行のタイミング
- ・ 移行時期の業務の調整
- ・ 社内的な説明の準備時間

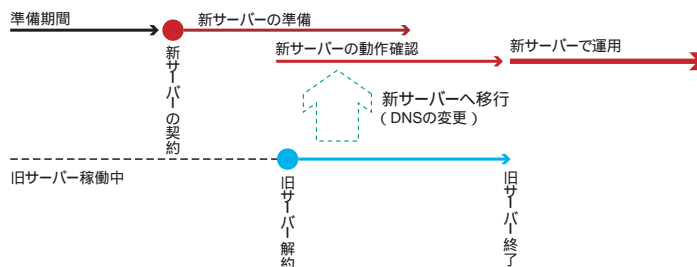
Check 1 解約条件を確認して必要な残金を計算する

まず初めに確認したいのが、解約条件だ。たとえば半年契約の場合は、途中で解約しても残りの期間の料金は返却されないのが一般的だ。残り期間がどの程度あり、それに相当する料金がどの程度の金額になるのかを計算しておこう。場合によっては、しばらく我慢して移行時期を延期したほうがいいという場面もある。特に専用型のレンタルサーバーでは、解約条件がやや厳しくなっていることが多いので要チェックだ。

Check 2 移行の方法と解約のタイミングを決める

次に、解約の方法とタイミングを確認しよう。まず契約条件を確認して解約から停止までの大雑把な期間をつかんでおきたい。また、解約する前にその予定をメールなどで現在加入しているレンタルサーバー会社に通知しておこう。その際には解約および移行する理由も明確に知らせておいたほうがいだろう。というのも、レンタルサーバー会社にとっては、解約は避けたい事態であり、ユーザーの意見を反映してサービスや機能を充実させるといった方策を採ってくれるかもしれないからだ。

移行のスケジュール



移行スケジュールのポイントは、無駄ないように見えても必ず新サーバーを契約して機能をチェックしてから、旧サーバーを解約するという順番を守ることだ。引っ越し先の新サーバーで問題があるときに、先に解約してしまっているとスケジュールが立たなくなる。移行作業にはだいたい2週間程度を見といたほうがよいだろう。また、新サーバーの動作確認はDNS変更前にできると、変更後でなければいけないことがある。移行直後のトラブルを最小限にとどめるためにも、DNSの変更時期は慎重に選びたい。

Check 3 ドメイン名の名義を確認する

引っ越しをする際に気を付けたいのが、今使っているドメイン名の名義が誰になっているかだ。レンタルサーバーの契約とドメイン名の取得をまとめて行った場合、ドメイン名の名義がレンタルサーバー会社になっていることがある。これは、本来個人でドメイン名を取得したときに個人情報「whois」に掲載されて漏れるのを防ぐためなので、その会社の名義になっていてもドメイン名の移転は本来ユーザーが自由にできてしかるべきだ。しかし、実際には移転

作業が滞って新サーバーの契約がキャンセルされたり、移転できないトラブルが発生したりしている。特にサポートの悪いレンタルサーバー会社などでこのような事例が発生しているのだから、自分でwhoisなどを利用してP130参照確認しておきたい。もちろん、圧倒的多数のレンタルサーバー会社ではこういった問題はなく、きちんと対応されている。ごく一部でこのようなトラブルが起きていることは由々しき問題であり、悪質といえるだろう。

Check 4 DNS変更から解約までのアクセス方法を調べる

DNSを変更すると、旧サーバーはインターネットからドメイン名ではアクセスできなくなってしまう。しかし、場合によっては設定を再確認したり、ファイルを取り出ししたりしたいことがある。このため、DNSの変更後も直接IPアドレスを指定して旧サーバーにアクセスできるといい。また、DNS設定直後は、旧サーバーにメールが届いてしまうことがあるので、それを読み出したいときにもIPアドレスでアクセスできると便利だ。

移行先のサーバー総点検

新たに契約するサーバーを確認しよう

移行先のレンタルサーバーで重要なのは、今使っている環境がそのまま引越してできるかどうかだ。いくつかのチェックポイントを以下に列挙したが、一番よい方法は移行先のレンタルサーバー会社に、移行の条件や方法を事前に確認しておくことだ。自分で判断するよりも、サポートを頼ったほうがより確実だし、話も早いだろう。

Check 1 独自ドメイン名の 利用可否を確認する

独自ドメイン名が利用できないレンタルサーバーというのはほとんど見かけないが、取得済みのドメイン名を移転できるかどうかは確認しておきたい。特に、移管できるトップレベルドメインに制限がある場合があるため、今使っているドメイン名の移管の可否をあらかじめ調べておこう。.comなどのgTLDドメインしか扱ってられないレンタルサーバーもある。

Check 2 ドメイン移管の手数料を 確認する

新規にドメイン名を取得する場合には登録料金(年間登録料など)以外の経費はかからない。しかしドメイン名を移管する場合には手数料が必要な場合が多い。この手数料は、ドメイン名の種類によって金額が変わってくるので、メールやウェブサイトを確認しておく必要がある。参考に5か所程度ランダムに調べたところ、gTLDドメイン(.com、.net、.orgなど)ではおおむね2,000円前後、.jpドメインでは5,000円程度の価格設定が多いようだ。

Check 3 契約期間を確認して 選択する

一般に、契約期間が長くなればトータルコストが安くなる傾向がある。だが、ほとんどの契約では中途解約しても料金は戻ってこないの、そのトレードオフを考えて選択すべきだろう。また、クレジットカード支払いでは1か月単位の契約が可能だが銀行振り込みでは6か月からといった契約期間の制約を設けている場合もある。途中で契約期間を変更できるようなら最初は3か月で契約して、安定して動作し始めたら3か月後に1年契約に変更するといった手も使える。

Check 4 移行作業の快適さを チェックする

契約後の移行作業を考えると、できるだけその作業を快適にしたいものだ。たとえば、暗号化したパスワードを使ってアカウントの作成ができれば、ユーザーが旧サーバーで使っていたパスワードを変更しないで移行できるし、メールリストなどでは、メールアドレスのリストを一気に流し込めないと非常に面倒な作業が必要になる。また、telnetが使えるればこういった定型の移行作業はスクリプトなどで実行できるメリットがある。移行作業の面倒を少しでも減らせばトラブルも起きにくい。

Check 5 DNS情報の 変更方法を調べる

DNSの変更は、引越しの最終過程で行う重要な作業だ。方法としては、メールなどで変更を依頼するか、ウェブサイト上の専用フォームなどで申請する方法がある。いずれの場合も重要なのはDNSの切り替えタイミングだ。DNSの切り替えとともに、旧サーバーから移行先の新サーバーに徐々に切り替わり、メールもウェブも新サーバーが有効になる。移行にまつわるトラブルを最小限にとどめるには、担当者が待機した状態でDNSが変更されることが望ましい。

レンタルサーバー選びのチェックポイント

レンタルサーバーを乗り換えるにあたって、機能面での確認は欠かせない。アカウント数やディスク容量が十分確保できることはもちろんだが、それ以外の機能についても念入りに調べておいたほうがいい。特に必須なのは、コントロールパネル(管理画面)の使いやすさだ。telnetでの管理に慣れていない人には関係ないが、一般的にはコントロールパネルを使ってサーバーを管理するのが主流だ。管理画面が使いにくいと作業が煩雑になり、引越作業にも影響を及ぼす。また、それまで使ってきた機能がある場合、たとえばデータベースサーバーやPHP、CGIで用いるperl言語などが使えることを確認するのはもちろんだが、PHPなどのような条件でコンパイルされているか、perlならどんなモジュールがインストールされているかなどをより詳細に確認しておかないと、引越したらそれらが動かなくなってしまうということになりかねない。

- ・使いたい機能はすべて入っているか?
- ・コントロールパネルの使い勝手はどうか?
- ・telnet、sshの利用が可能か?
- ・アカウント数、ディスク容量などリソースの制限は?
- ・データベース、PHP、perlなどのバージョンやコンパイルオプションは?
- ・メールリストの管理ソフトの種類は?
- ・ソフトウェアのインストールやコンパイルができるか?



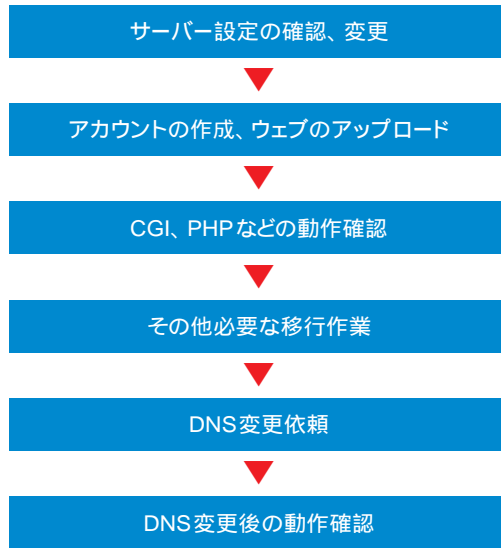
いよいよ本番 移行作業の進め方と 注意点をとことん確認

レンタルサーバーの引っ越し作業もいよいよ大詰めだ。移行作業の大雑把な流れは、まず新サーバーに必要な設定を行い、アカウントを作成する。ウェブページのデータのアップロードなどを行って、可能な範囲の動作確認を済ませる。そして、よく確認したうえで、タイミングを見計らってDNSの設定変更を依頼するという手はずになる。DNSが変更されたら、旧サーバーに届いていたメールは新サーバーに届くようになるし、ウェブサイトも新サーバーのものが有効になる。

ウェブサイトはDNS変更前に 徹底的にテストする

レンタルサーバーの場合、DNSを設定する前でもIPアドレスでサーバーに接続してウェブページの表示が正しいかどうかをテストできることが多い。ウェブサーバーの細かな設定の違いのためにリンクが正しくたどれなかったり、CGIやPHPが正しく動かなかったりという問題が発生する可能性はあるので、全部のページを事前にチェックしておきたい。また、新サーバーのトップページには、「サーバーメンテナンス中のためメールが届かないことやトラブルが起きる可能性がある」とことを告知

移行と確認作業の流れ



しておくといいたい。またトラブルが起きた際の問い合わせメールアドレスを別途用意して知らせておくのとベターだ。

DNS変更後は とにかく動作確認を急ぐ

DNSの変更を依頼すると、変更される日時と目安の時間などの連絡が届くはず

だ。その時期を見計らって、DNSやメール、メーリングリストなどの動作確認を迅速に行う必要がある。もちろん、メールの利用者には、事前にアクセス方法などを周知させておいて、メールの送受信が正しくできることを確認してもらいたい。メールのトラブルは必ず起きる。管理者が別のアドレスを用意しておくのもよい方法だ。

ドメイン情報やDNSの設定内容を調べよう!

移行するドメイン名やDNSの状態を知るとは非常に重要だ。ここでは、それらの情報を調べる方法を教えよう。まずドメイン名はよく知られているようにwhoisというデータベースにアクセスして調べることができる。名義が誰になっているかなど、チェックしておきたい。また、DNSの状態は、ウィンドウズではnslookupコマンドを使って調べる。

IPアドレスを調べるときは、「nslookup 調べたいホストのFQDN」だ。メールサーバーを知りたいときは、「nslookup -q=MX ドメイン名」と指定する。

```

E:\Documents and Settings\yume>nslookup www.accessibility.jp
Server: setup.netvolante.jp
Address: 192.168.0.1

Non-authoritative answer:
Name:   newmail.accessibility.jp
Address: 210.224.181.132
Aliases: www.accessibility.jp

E:\Documents and Settings\yume>nslookup -q=MX accessibility.jp
Server: setup.netvolante.jp
Address: 192.168.0.1

accessibility.jp
primary name server = newmail.accessibility.jp
responsible mail addr = root.newmail.accessibility.jp
serial = 200201221
refresh = 86400 (1 day)
retry = 10800 (3 hours)
expire = 604800 (7 days)
default TTL = 259200 (3 days)
  
```

【情報サイト】

JPRSのwhoisサービス
<http://whois.jprs.jp/>
 InternetTestTools Ver3.1
<http://www.osk.3web.ne.jp/~goronyan/winprg/sub.shtml>
(nslookupなどを搭載したGUIのツール)
 ウェブでnslookupできるサイト
<http://www.kawabata.ksi.ne.jp/nslookup.asp>

移行のタイミングで メールを失わないように注意

DNSを変更すると、それまで旧サーバーに届いていたメールが新サーバーに届くようになるということはすでに理解していただけただろうが、ここで注意すべきことがある。DNSは設定が変更されてもすぐには効果が現れず、じわじわと変更された情報がインターネットに伝わっていくという点を理解しておく必要がある。つまり、DNS変更直後は、旧サーバーにも新サーバーにもメールが届いてしまう期間があるということだ。

またサーバーの切り替えがうまくいかないと、メールサーバーに届かないメールが出てくることも考えられる。DNSを自分自身で設定できる場合には、できるだけ回避することも可能なのだが、レンタルサーバーの場合はそこまでのサポートは受けられないと考えたほうが良いだろう。

したがって、DNSが変更されてから2日間程度は、新サーバーだけでなく、旧サーバーのメールボックスも念のためチェックするようにしたほうが良い。もし旧サーバーにウェブメール機能があれば、それを使うのもいいだろう。いずれにしても、メールの利用者には旧サーバーのメールを受信できるように旧サーバーのIPアドレスで指定したメール受信アカウントを作成してもらい、しばらくは両方を使うというのがベストな方法だ。

別ドメインで乗り換えてから 移行を進めるテクニック

また、もっとシビアに問題の発生を防ぐのなら、新サーバーには新しい別のドメイン名を取得して使用するという手もある。仮想ドメイン名の使用が可能な専用型レンタルサーバーなら、まず新しいドメイン名で運用を開始する。順調に動くようになったら、新ドメイン名にメール環境などを移してもらったうえで、十分なテストを重ねて旧サーバーを解約し、旧ドメイン名を新サーバーの仮想ドメインにしてしまうのだ。そうすれば、旧ドメインと新ドメインの両方が使えるし、何か新サーバーで設定などにまつわるトラブルが発生しても、旧サーバーも同時に動いているので安心だ。つまり、一時的にサーバーを二重化するわけだ。

さらに、旧サーバーに届くメールをすべて新しいメールサーバーに転送するように設定しておけば、2つのサーバーでメールをチェックする必要はない。こうしておくことで、DNSの変更直後でもメールはすべて新サーバーに届くようになり快適に利用できるはずだ。

ドメイン名の維持費自体はそう高いものではないので、たとえば旧ドメインが「someone.co.jp」なら、「someone.jp」や「someone.com」などを取得してしまうのだ。関係するドメイン名も取得できるし、一石二鳥の策といえるだろう。

サーバー引っ越し お役立ちミニ情報

スループットを測ってみよう

netperfコマンドを使えば、自宅や会社とレンタルサーバーとの間の大まかなスループットを測定できる。ただし、ソフトウェアがインストールできるのが条件だ。root権限のある専用型のレンタルサーバーや仮想rootのあるVPSでは問題なくできるだろう。

netperfのウェブサイト

<http://www.netperf.org/>

移行のタイミングで機能アップ

今のウェブサイトを移行するだけというのではいかにももったいない。どうせ一定の移行作業が必要なのだから、この移行期間を、ウェブサイトのデザインの見直しやPHPなどを使った動的なウェブ、またデータベースを使った機能など新しいものにチャレンジするきっかけにするといい。今すぐには使わなくても、今後のビジネスに役立つことは間違いのない。

レンタルサーバーを借りて レンタル？

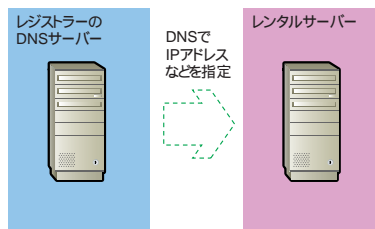
低価格のレンタルサーバーの中には、大手のレンタルサーバーを借りて、その中で共用型のレンタルサーバー事業を展開しているところが少なくない。専用型サーバーの管理や運用さえできれば、ハードウェアの投資ゼロでレンタルサーバーのビジネスが始められる。もちろん、友人同士や関連会社と折半して1台の専用型レンタルサーバーを借りてシェアするという使い方も考えられる。

キャンペーン企画に注目！

初期設定料金が無料になったり、特別な価格設定、オプションのディスクやメモリーをサービスするなど、乗り換えや新規契約を狙ったキャンペーンが頻繁に行われている。これらのキャンペーンをうまく使うと、引っ越し費用が圧縮できる。次ページで紹介するレンタルサーバー各社の情報やウェブサイトをごまめにチェックしてお得な情報を見つけよう。

レジストラーを使ってDNS管理を独立させる

レジストラーの中で、DNSの管理をユーザーに開放しているところがある。ウェブ画面でDNSの設定変更を行うと、さまざま機械的に処理されるものだ。これを使って、レンタルサーバーとDNSサーバーを別にしておくと、移行時に新サーバーでトラブルが発生してもすぐさま旧サーバーに切り替えることが可能になる。ただし、レンタルサーバー会社によってはこういった運用を認めていない場合もあるので、事前に確認しよう。



レンタルサーバー会社とは別にDNSを用意する。友人のサーバーに居候させてもらうという奥の手もある。

引っ越しに最適！ レンタルサーバーカタログ ▶▶▶▶



引っ越しにまつわるお得情報満載

【厳選14社】

レンタルサーバーカタログ

前ページまで、レンタルサーバーを引っ越し際の手順を述べてきた。では、実際に引っ越しするのであれば、レンタルサーバー事業者の特性を把握して、より自分に合ったレンタルサーバーを選びたいもの。

ここでは、レンタルサーバー事業者に、引っ越しにまつわるサポート状況や乗り換えユーザーに向けた特典情報などについて取材を行った。初期費用が割引になったり、加入月の月額料金が無料になったりするなど、サービス内容は各社異なるので、事前にじっくり調べて特典を見逃さないよ

うにしよう。

また、わかりにくいドメイン名の移行の手続き方法もまるごと代行してくれる事業者もあれば、電話でこと細かに対応してくれるところもあるし、レンタルサーバー事業者のウェブサイトで紹介しているケースもある。サポートも、メールのみの場合や電話、FAXにも逐次対応しているなど、方法はさまざま。

いま一度基本の契約内容の確認も含めて、主要なレンタルサーバー事業者14社を一挙に紹介しよう。

レンタルサーバー契約内容の確認(表の見方)

確認項目	内容
申し込み方法	ウェブサイトからオンラインサインアップで申し込めるか、それとも送付またはウェブからPDFファイルなどで取得した書面で郵送またはFAXで送るのかをチェック。すぐに利用したい場合は、オンラインサインアップが便利だ。
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	申し込みをしてから実際に利用できるようになるまでの期間は短いにこしたことがない。この期間を把握しておかないと、月額料金が日割りの場合はいいが、利用開始が月末でも1か月分の月額料金が徴収されたり、加入月無料の特典もあまり意味のないタイミングになったりする場合がある。
最低利用期間	最低利用期間を設けている場合は、その期間内に解約しても契約期間分の料金を支払わなければならないので注意。
試用期間と制約	料金を支払う前に、1週間から10日程度、試用期間を設けている場合がある。
解約の申請方法と受付期間	申し込みはオンラインでも、解約は書面の郵送をもって成立するケースが多い。また、解約する場合は、いつまでに申請するといふ解約できるのか分かる。この期間を見て、ベストなタイミングでサーバーを切り替えよう。
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	乗り換えユーザーの場合は初期費用が割引になることがある。そのほか、キャンペーン情報もチェック。
上位の契約(コース変更など)のときの手数料	複数のサービスコースを用意している場合、上位のコースに変更するときに手数料がかかるかどうか、共用サーバーから専用サーバーに変更する場合についても同様に確認する。
利用料金の支払い方法	クレジットカード払い、コンビニ決済、銀行振込、口座振替、請求書支払いなどがある。
利用料金の支払い単位	毎月支払う月額払いか、1年ずつ支払う年間払いか。3か月や6か月単位で支払うケースもある。
独自ドメイン取得代行の可否	レンタルサーバーの乗り換えと同時に、新規に独自ドメイン名を取得したい場合、サーバー事業者が代行してくれるかどうか。
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	独自ドメイン名の取得を代行してもらった場合、取得者の名義はユーザーになるか事業者になるか。
独自ドメイン移行の可否と移行費用	独自ドメイン名がユーザー名義であれば、たいしてはサーバー移行にともなってドメイン名の持ち出しもできる。ここでは、実際に移行が可能かどうか。また、移行の際に費用が発生するかも併せて確認する。
問い合わせ方法と時間	通常のメールまたはウェブサイトを用意したメールフォームの利用、電話、FAXと問い合わせ方法はさまざま。また、問い合わせ可能な時間もメールや電話では異なる。

掲載事業者・サービス

サーバンスウェブホスティングサービス
 AT-LINK専用サーバ・サービス
 OCNホスティングサービス
 BBホスティング「プロ」
 WebARENA Suite2
 Kagoya Internet Routing
 レンサバ本舗.com
 SRSさくらインターネット
 CsideNet
 NeXtWEB
 ロリポップ!レンタルサーバー
 WADAX
 smartSQUARE
 ファーストサーバ

リムネットで築いた経験豊富なスタッフによる信頼の運用体制が魅力 サーバンスウェブホスティングサービス <http://www.servance.jp/>

インターネットが提供する「サーバンスウェブホスティングサービス」は、専用サーバー感覚で使える共用サーバーのほか、専用サーバーやハウジング・コロケーションと各種ニーズに対応できる拡張性の高さが魅力だ。

充実のサポートと月額35,000円から利用できる低価格専用サーバー

サーバンスでは、運用スタッフがリモートで対応するのではなく、データセンターに24時間365日常駐してサーバーを監視している。スタッフは、インターネットのプロバイダーサービスブランドであるリムネットにおいて、10年間サーバーを運用してきた経験豊富なスタッフが中心だ。サポートでは、メール対応はもとより、平日午後10時までは電話での問い合わせも受け付けるなど、ユーザーの支援に力を入れている。これらサービスは基本料金に含まれており、別途保守料金は発生しない。

共用サーバーサービスは、容量と使える機能の違う3つのコースが用意されている。VDS(Virtual Dedicated Server)という仮想専用サーバーを採用しており、「root権限での管理やリポートができるほか、データベースの運用にも制限がないなど専用サーバー感覚で使える(営業部マネージャー 白山直久氏)」。VDSにより各ユーザーの領域は完全に隔離されているので、共用サーバーに見られるように他のユーザーに情報を盗み見られる心配もない。

専用サーバーサービスは、使用ハードウェアのスペックとOSごとにサービスコースが分かれていて、現在選択できるOSは「Windows Server 2003」「Cobalt Linux」「Apple Xserve」の3種類。ハードウェアはそれぞれ「Dell PowerEdge」「Sun Cobalt」「Apple Xserve」だ。最低価格帯のコースは月額3万8,000円(1年分一括払いの際は月額3万5,000円相当に割引)。人気機種であるSun Cobalt(Linux)を使ったコースに関してはハードウェアの生産が終了することもあり在庫限定となっているが、今後はその後継機としてHDE社のコントロールパネル搭載の専用サーバーを投入する予定だ。

複数ドメインの運用コスト大幅ダウンを実現

専用サーバーサービスの価格は国内でも安価な部類に入るが、それ以上にメリットが大きいのが、複数ドメインの運用コストが安い点だ。セカンダリーDNSの申請が1申請(複数可)あたり1,000円、追加IPアドレス1個あたりの利用料が月額2,000円、ドメイン名の年間維持費は「.com」の



インターネット株式会社
営業部マネージャー
白山直久氏

場合で1ドメインあたり月額3,800円となっている。「これで10万円以上のコストダウンを実現している例が多くある(同氏)との話もうなずける。

さらに、ドメイン名の引越サポートを無料で行っている(電話対応可)。DNSの変更はウェブ上のコントロールパネルで24時間いつでもできるうえ、「たとえ100個のドメインの移転でも引き受ける(同氏)とのことなので、特に多数のドメイン名を管理しているユーザーにはメリットが大きいだろう。

また、セキュリティ対策として、シマンテック製品によるウイルスチェックサービスを1ドメインあたり月額500円、1メールアカウントあたり月額150円と低額で提供している点も見逃せない。

なお、初期費用が無料になるキャンペーンを2004年4月末まで実施している。レンタルサーバーの引越しも営業スタッフが移行完了まで無料でサポートしてくれるため、不慣れなユーザーには便利だ。さらに、共用サーバーサービスの場合は、1か月間の無料お試し期間があるので、それを有効に活用するといいたいだろう。

レンタルサーバー契約内容の確認

	専用サーバーサービス	共用サーバーサービス
申し込み方法	書面(送付またはウェブからPDF)	サインアップ / 書面(送付またはウェブからPDF)
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	3営業日	翌営業日
最低利用期間	12か月間	6か月間
試用期間と制約	応相談	1か月の試用期間あり
解約の申請方法と受付期間	書面 / 月末締め翌未解約	
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	新規、乗り換えともに2004年4月まで無料	
上位の契約(コース変更など)のときの手数料	無料	
利用料金の支払い方法	クレジットカード / 銀行振込 / 口座振替	
利用料金の支払い単位	年間払い(割引あり) / 月額払い	
独自ドメイン取得代行の可否	可	
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ユーザー名義 / 取得代行費無料	
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可 / 移行費用不要	
問い合わせ方法と時間	メール / 電話 平日10:00 ~ 22:00 土日祝10:00 ~ 18:00	

問い合わせ先

インターネット株式会社

TEL 0120-678-302
sales@servance.jp

安心サポートとあらゆるOS・マシンを用意した多彩なメニューが強み

AT-LINK 専用サーバ・サービス

<http://www.at-link.ad.jp/>



安心の電話サポートと多彩なメニューで他の専用レンタルサーバ事業者を一歩リードするAT-LINK専用サーバ・サービス。Red Hatの3年間無償サポート継続を決定するなど、レンタルサーバ利用者の中で同社の注目度は高い。

専用サーバに特化するも 目を見張る多彩なメニュー

AT-LINK専用サーバ・サービスは、その名が示すとおり専用サーバに特化したレンタルサーバだ。同社の最大の特徴は、ユーザーのあらゆる要求に応えるべく用意された、きめ細かなメニューだ。管理コストなどを削減するために、サービス内容をパッケージ化する事業者が多いなか、同社の多彩なサービス内容は特筆に値する。

たとえば、用意するマシンも、Celeron 2GHzを搭載した標準パッケージからDELL、IBM、Northern Lights、Appleにいたるまで、多くの機種が用意されている。また、利用可能なOSの選択肢もSlackware、Red Hat、Free BSD、Windows 2000と多岐にわたる。「専用ホスティングサービスでOSの選択肢を用意しているところはほかにはないのではないのでしょうか」と

AT-LINK専用サーバ・サービスを提供する株式会社リンク取締役社長の岡田元治氏は胸を張る。

だが、メニューは多彩でも利用料が高ければ魅力は半減する。しかし、同社はこれらのサービスをバーゲンプライスで提供している。キャンペーンマシンを利用する標準パッケージコースで、初期費用5万円、月額1万9,000円～(2台目以降は1万4,000円～)での提供は大いに魅力的だ。

さらに、同社の有明NOCにBフレッツなどの光ファイバー回線をユーザー名義で引き込んでサーバを設置する「BBコネクション」といったメニューも用意されている。このメニューは、AT-LINK専用サーバ・サービスが提供するサーバ管理などのサポートを受けつつ、トラフィックの部分ではベストエフォート型のブロードバンド回線を利用できるというメリットがある。

2006年12月31日までRed Hatの 無償サポートサービスを継続

Red Hat 7.3と8.0に関するRed Hat社からのパッチ提供が2003年12月31日で打ち切られた。この措置にともない通常であれば、年間6万円ほどの有償サポート費用が必要になるが、AT-LINK専用サーバ・サービスでは、2006年末まで、無償サポートを継続して実施する。

同社では、他事業者からのサーバ移転時のサポートにも力を入れている。通常であれば、サーバの移転にはさまざまな費用が発生する。だが、各種設定、切り替え、確認などに関する「あらゆるコンサルティングを無料で行う(同氏)と、サービスの優位性を強調する。

さらに、サーバは24時間365日監視され、障害時のハードウェア交換やOSの再インストールなども基本料に含まれている。また、電話での問い合わせは、AT-LINK専用サーバ・サービスの営業日9:30～23:00、休業日0:00～24:00の受け付けとなっており、ユーザーにとっては頼もしいサポート体制だ。もちろん、メールでの受け付けは24時間OK。

このほかにも、起業や新サービス立ち上げを支援する意味で、6か月間無料でサービスを利用できる「eBusinessインキュベータ」を提供するなど、専用レンタルサーバ業界のリーディングカンパニーとして、積極的なサービス展開を行っている。

レンタルサーバ契約内容の確認

	AT-LINK専用サーバ・サービス
申し込み方法	申し込みフォームからサインアップ
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	通常3週間前後(入金確認後の6営業日後18時から、または申し込み確認の翌営業日18時に運用開始が可能なプランもあり)
最低利用期間	なし
試用期間と制約	試用期間はないが、運用開始当月に解約する場合は利用料不致(ただし初期費用は返還不可)
解約の申請方法と受付期間	解約希望当月の27日までにメールで通知し、次月利用料を支払わなければ解約が成立
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	原則として乗り換え時の割引はなし(初期費用は50,000円～)
上位の契約(コース変更など)のときの手数料	特になし(マシンスペック変更は初期費用がかかる)
利用料金の支払い方法	銀行振込/口座振替
利用料金の支払い単位	年間払い/月極め
独自ドメイン取得代行の可否	JPDメインおよびgTLDについては取得代行可
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ユーザー名義/無料(マスタードメイン)
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可/移行費用不要
問い合わせ方法と時間	メールフォーム/電話 営業日9:30～23:00 休業日0:00～24:00

別途、初期費用および6か月分の利用料無料サービス「eBusiness インキュベータ」を用意

AT-LINK専用サーバ・サービスのキャンペーンマシン

名称	CPU	メモリー	HDD	初期費用
標準パッケージ	Celeron 2GHz	512MB	40GB	50,000円
ターボパッケージ / 512モデル	Celeron 2.8GHz Northwood	512MB	120GB	75,000円
ターボパッケージ / 1GBモデル	Celeron 2.8GHz Northwood	1GB	120GB	85,000円
モンスター / 512モデル	Pentium 4 3.06GHz Hyper-Threading	512MB	120GB	95,000円
モンスター / 1GBモデル	Pentium 4 3.06GHz Hyper-Threading	1GB	120GB	105,000円

問い合わせ先

AT-LINK専用サーバ・サービス

TEL 03-3280-2555

(営業日9:30～23:00・休業日0:00～24:00)

pr-info@at-link.ad.jp

ビジネスユースにも安心の高品質と低価格を実現

OCNホスティングサービス

<http://www.ocn.ne.jp/hostad/>



豊富なサービスプランで、どんなユーザーにもぴったりのプランが見つかるOCNホスティングサービス。共用サーバー並みの料金で、専用サーバーに匹敵するサービスを実現した「メール&ウェブPro」に注目だ。

NTTコミュニケーションズ OCNが提供するレンタルサーバー

「OCNホスティングサービス」はNTTコミュニケーションズが提供するサービスだけあり、高品質なサーバー環境を最大の売りとしている。ユーザー向けに用意するサーバーも、大手有名企業などのサーバーが同居する同社のデータセンターに設置されて国内最大級のOCNバックボーンに直結し、いついかなるときでも快適なアクセス環境を提供している。

また、信頼性の高いセキュリティ対策も同サービスの大きな特徴だ。24時間365日の有人監視体制でサーバーを管理するほか、ウイルスチェックなど、最新の情報にもとづくセキュリティ対策が施され、ビジネスに必須の信頼のノンストップ環境

を提供している。

OCNホスティングサービスのサポート体制も定評があり、独自ドメイン名の取得からサーバー設定までサポートしてくれる。サーバーやネットワークに関する詳しい知識がなくても、使いやすいメールやウェブ環境を簡単に構築することが可能だ。

ただ、いくら立ち上げが簡単でも、日々の運用や管理面で万が一の事態が起きないともかぎらない。そんな場合に備え、同サービスでは、24時間体制で電話による故障受付を実施しているので安心だ。

共用サーバー並みの料金で専用サーバーに匹敵するサービスを実現

OCNホスティングサービスでは、簡単にメールやウェブを利用したいユーザー向け

の「メール&ウェブ30」(月額4,800円から、本格的な情報発信を目指すユーザー向けの「メール&ウェブPro」(月額1万9,800円~)まで、ユーザーニーズに合わせて選べる豊富なラインナップが用意されている。なかでも「メール&ウェブPro」は、注目度が高い。これは、これまでの共用サーバーでは物足りないビジネスユーザーのために用意されたメニューだ。共用サーバー並みの料金で、専用サーバーに匹敵するパフォーマンスを実現している。

共用サーバーとはいえ、ユーザーごとに独立してOSやプロセスが動作するため、サーバーを共用する他のユーザーの影響を受けにくいという特徴がある。ディスク容量は1.25GB~最大5.6GBが用意されており、root権限も与えられているため、ユーザー側で独自にアプリケーションソフトを導入し、複数ドメイン名で運用するなど柔軟にカスタマイズして利用できる。

また、無制限に利用可能なメールアドレス数やデータ転送量に上限が設けられていない点も、ビジネスユーザーには朗報に違いない。

このほか、主な機能として、サーバー管理ツールの「iManager」、ウェブメール、迷惑メール防止、Telnet/SSHアクセス、FTPアクセス、PHP、Java、データベース(MySQL、PostgreSQL)、ミラーリング(RAID1)・ディスク・テープのトリプルバックアップなどが提供されている。

レンタルサーバー契約内容の確認

	メール&ウェブ	メール&ウェブPro
申し込み方法	書面(ウェブから入手可)	
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	最短10営業日	
最低利用期間	1か月	2か月
試用期間と制約	なし	
解約の申請方法と受付期間	書面(ウェブから入手可)/解約希望日の数日前着	
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	3,000円~	15,000円~
上位の契約(コース変更など)のときの手数料	メール&ウェブ内のプラン変更 2,000円 メール&ウェブPro内のプラン変更 4,000円 メール&ウェブからメール&ウェブProへの変更は再契約となるため、上位契約の初期費用が必要	
利用料金の支払い方法	クレジットカード/口座振替/請求書支払い	
利用料金の支払い単位	月額払い	
独自ドメイン取得代行の可否	可	
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ユーザー名義/料金はドメインごとに異なる	
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可/移行費用不要	
問い合わせ方法と時間	メール/電話 平日9:00~19:00	

メール&ウェブの料金と主な機能

プラン	メール&ウェブ30	メール&ウェブ100	メール&ウェブPro
基本メールアドレス数	30個	100個	無制限
基本ディスク容量	60MB	200MB	1.25GB~
初期費用	3,000円		15,000円
月額基本料金	4,800円	9,800円	19,800円~
メールウイルスチェック(有料オプション)	3,800円	8,800円	10,000円~
データ転送量	3GB	5GB	無制限
CGI			
アクセスレポート			
SSL対応			

記載の料金は税別。 初期費用は申し込み形態によって異なる。 詳細はウェブサイトを参照。

問い合わせ先
NTTコミュニケーションズ株式会社
 OCNホスティングサービス
 OCNインフォメーションデスク
 TEL 0120-047-811(平日9:00~19:00)
 info@ocn.ad.jp

root権限が利用可能なLinuxベースの専用ホスティングサービス

BBホスティング「プロ」

<http://www.intervia.ad.jp/>



BBホスティング「プロ」は、NTTデータが提供する専用サーバーサービスだ。root権限によるサーバー管理が可能で、さらに付加サービスを利用することで、コンテンツ配信やデータベースなど信頼性を要求されるシーンで威力を発揮する。

ユーザーニーズに応じて登場した root権限利用可能な専用サーバー

NTTデータは、従来より『BBホスティング』と呼ばれる専用サーバーサービスを提供してきたが、『BBホスティング「プロ」』は既存サービスよりもさらに上級者向けのサービスにあたる。

今回新たにBBホスティング「プロ」を提供することになった背景は、既存のサービスよりもさらにサーバー機能を自由に利用できるサービスを熱望するユーザーの存在だ。既存のBBホスティングでは、ユーザーにroot権限を渡していなかったため、ユーザーが利用できる機能に制限があった。プログラミング環境を自由に構築できなかったり、root権限での利用が前提となっているツールが使えなかったりしたため、これらを自由自在に使いこなしたいユーザーにとっては歯がゆい部分があった。こうした既存サービスへの要望に応えたのが『BBホスティング「プロ」』というわけだ。

BBホスティング「プロ」の特徴は、root権限が利用できること、そして強力なネットワーク環境だ。NTTデータはJPIX、JP NAP、dix-ieの3つのIX(Internet

eXchange と接続しており、主要プロバイダー100社以上とピアリング(直接接続)している。このため、強力なバックボーンとあいまって、エンドユーザーまでのホップ数が少なく(ネットワーク的に距離が近い)、高速かつ高品質なネットワーク環境を実現している。

社内SI部隊に磨かれた デジタルコンテンツの配信環境

NTTデータではこれまでもホスティングサービスを多くのユーザーに提供してきたが、その中でももっとも厳しい要求を突きつけてきたのが同じ社内のSI部隊だったという。この要求をもとに磨き上げてきた成果が、BBホスティング「プロ」につながっている。

BBホスティング「プロ」は、NTTデータが提供するブロードバンドビジネスプラットフォーム「InterVia」ブランドに属す。このInterViaブランドには、ほかにもストリーミング配信サービス「BBストリーミング」やデジタルコンテンツを暗号化して配信することで著作権を保護する「BBライツ」などがある。また、主要プロバイダー8社と提



株式会社NTTデータ
ビジネス開発事業本部
iTプラットフォーム
ビジネスユニット
課長代理
大石浩一郎氏

携しているため、そのプロバイダーに加入する約1,800万ユーザーを対象にしたプロバイダー課金を可能とするサービス「課金IX」も用意している。専用サーバーとこれらのサービスとを組み合わせることで、ショッピングサイトやコンテンツのダウンロード販売サイトなど、ネットワークのパワーを生かしたビジネス展開を容易にしている。すなわち、NTTデータには、ホスティングサービス以外にも企画や映像制作、映像のデジタル化、ウェブサイト制作などサーバー運営のために必要となるサービスをまとめて提供できる地盤が整っている。「デジタルコンテンツ提供のためのワンストップショップとしてぜひ使ってほしい(ビジネス開発事業本部 iTプラットフォームビジネスユニット 課長代理 大石浩一郎氏)」というのがその意図するところのようだ。

ちなみに、3月末までは乗り換えユーザーも含めて初期費用が無料となるキャンペーンを実施中だ。なお、中級者向けやより大規模・信頼性の高いメニューも今後リリースされる計画とのことだ。まずは問い合わせせてみるというだろう。

問い合わせ先
株式会社NTTデータ
ビジネス開発事業本部
iTプラットフォーム担当
TEL 0120-038-537
bbinfo@intervia.ad.jp
(平日 9:00 ~ 17:00)

レンタルサーバー契約内容の確認

	BBホスティング「プロ」
申し込み方法	書面(送付)
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	最短3営業日(既存ドメイン移行の場合)
最低利用期間	6か月
試用期間と制約	検討中
解約の申請方法と受付期間	書面 / 当月解約の場合は15日まで申請
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	70,000円(2004年3月末まで無料)
上位の契約(コース変更など) ときの手数料	-
利用料金の支払い方法	請求書払い
利用料金の支払い単位	月額払い(月額料金64,800円)
独自ドメイン取得代行の可否	可
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ユーザー名義 / 13,500円 ~
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可 / 10,000円 ~
問い合わせ方法と時間	メール 平日9:00 ~ 17:00

レンタルサーバーカタログ

乗り換えユーザーが新規加入の6割を誇る低価格共用レンタルサーバー WebARENA Suite2

<http://web.arena.ne.jp/suite2/>



NTTPCコミュニケーションズの「WebARENA Suite2」は、従来提供してきたWebARENA Suiteをディスク容量やコントロールパネル、その他機能面で大幅に強化しながら、それでいて価格を据置きした共用レンタルサーバーサービスだ。

国内トップクラスの

25Gbps超のバックボーンを有効利用

WebARENA Suite2(ウェブアリーナ・スイート2)は、月額3,200円から利用できる共用レンタルサーバーだ。低価格ながら基本機能が充実していて自由度が高く、オプション料金がかかるのはSSLや容量増設だけにすぎない。ディスク容量は基本100MBで、オプションにより最大1GBまで拡張できる。

転送量は無制限となっており、バックボーン回線が25Gbps超と国内トップクラスの高速大容量回線を使用しているため、品質面でも期待のできるものだ。この高速大容量回線は、NTTPCコミュニケーションズのプロバイダー事業にも併用されている。主に受信側でプロバイダー事業、送信側でレンタルサーバー事業にこのバックボーン回線を利用しているため、利用形態がバッチングせずに有効に活用されている。そのうえバックボーン回線は、専門の研究スタッフによって通信事情に合わせて毎月作り変えられており、スループットが回線速度の一定率を超えないように常に余裕を持った状態に保たれている。

機能面では、オリジナルの使い勝手のよいコントロールパネルに注目したい。あらかじめ用意されているショッピングカート機能を含め、CGIやグループウェアのインストールがブラウザからできる。自作CGIやPHPも標準で利用できるが、データベースについては今後オプションで提供する予定だ。

さらに、メールアドレスを無制限に利用できるほか、ウイルスチェックサービスも基本料金内で提供している。

メールサポートはその日のうちに返信 ドメイン名の取得込みで1日で開通

サポートはメールのみで、緊急時以外は平日昼間のみの対応となっている。基本的にその日に受けたものはその日に返す体制をとっているという。サーバー監視は有人による24時間365日体制。1997年のWebARENA Suite開始以来、6年以上になる運用実績は信頼につながっている。

サーバーの乗り換えは、ドメイン名の引越しも含めて開通までをサポートしている。同じくNTTPCコミュニケーションズが提供しているドメイン名登録サービスの「名



株式会社NTTPC
コミュニケーションズ
ネットワーク事業部
IPサービス営業部
岸 康浩氏

づけてねっと」を併用することで、加入と同時に独自ドメイン名を取得できるし、もちろん他のレジストラからのドメイン名の持ち込みもOKだ。クレジットカードで支払う場合で、「新規ドメイン名の取得やDNSの設定も含めて開通まで最短1日で完了する」(ネットワーク事業部 IPサービス営業部 岸 康浩氏)とのこと。早い場合だと1~2時間で開通することもあるのだという。

月額料金は支払い方法によって異なり、クレジットカード決済の場合がもっともお得で月額3,200円だ。請求書や口座振替の場合は4,000円と若干割高になるが、同一名義複数契約の請求書を1つにまとめる場合は2契約目以降はクレジットカードの場合と同額の3,200円となる。現在、加入月の月額料金が無料になるキャンペーンを実施中だ。

足回りの強さやサーバーの運用実績、開通の早さ、選べる支払い方法などのメリットが、毎月新規に加入するユーザーのうち他社のサーバーからの乗り換えが6割を占めるという数字にも表れている。

レンタルサーバー契約内容の確認

	WebARENA Suite2
申し込み方法	オンラインサインアップ
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	最短1日
最低利用期間	3か月
試用期間と制約	なし
解約の申請方法と受付期間	書面 / 解約希望日の1か月前
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	3,000円
上位の契約(コース変更など)のときの手数料	-
利用料金の支払い方法	クレジットカード / 口座振替 / 請求書支払い
利用料金の支払い単位	月額払い
独自ドメイン取得代行の可否	可(名づけてねっと)
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ユーザー名義 / 料金はドメインごとに異なる
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可 / 移行費用不要(レジストラの変更は有料)
問い合わせ方法と時間	メール 平日9:30 ~ 18:00

問い合わせ先
株式会社NTTPC コミュニケーションズ
インフォメーションセンター
TEL 0120-85-4588
suite@arena.ne.jp

プロバイダーサービスもまとめて利用できるユーザー志向のサービスを提供

Kagoya Internet Routing

<http://www.kagoya.net/>



カゴヤ・ジャパン株式会社
代表取締役社長
北川貞夫氏

Kagoya Internet Routingは、顧客の要望に応じて新機能の導入を積極的に検討するなど、よりユーザーの側に近い立場からのサービス提供に注力する。料金やサポートも含めて、より使いやすいレンタルサーバーの提供を常に目指している。

共用型感覚で使う専用サーバーなど 多様なコースを用意

Kagoya Internet Routingが提供するレンタルサーバーは、共用サーバーがディスク容量(200MB～1GB)と想定転送量(週1.5GB～6GB)ごとに3種類、専用サーバーが想定転送量(週15GB～80GB)ごとに3種類のコースに分かれている。専用サーバーの基本容量は30GBで、オプションで追加が可能だ。専用サーバーでは前述のものとは別に転送量によってはより割安となる従量課金コース(従量制サーバー)が用意されている。

料金の最低価格帯は、共用サーバーで月額2,000円、専用サーバーで月額2万9,000円、従量制サーバーで月額1万2,000円(月12GBまで)だ。基本的には専用サーバーについてもroot権限をKagoya Internet Routing側で預かり、サーバーの運用管理ごと提供するサービスとなるが、root権限も含めてすべてユーザー管理となる「専用サーバープロ」と呼ばれるコースもある。

申し込み後は、共用サーバーで数時間から1日、専用サーバーでも一部を除いて

1～3日もあれば利用を開始できる。サポートは電話とメールで受け付け、土日祝日も対応するメールは「早い場合で夜間でも5分でレスポンスを返せることもある」代表取締役社長 北川貞夫氏という。

ちなみに、Kagoya Internet Routingではレンタルサーバー事業以外にも、プロバイダーサービスやVPNサービスなども行っているため、インターネット関連の利用環境と請求書の集約も可能だ。また、グループウェアのサイボウズのインストールが簡単にできる環境を用意し、情報共有の場としても利用しやすくなっている。

引越しサポートツールを用意 各種割引や読者特典キャンペーンも

全コース共通のサービスとして、ウイルスチェックサービスやオンラインショッピングツールの基本機能を無料で提供している。オンラインショッピングツールについては、クレジットカード決済機能やその他カスタマイズ機能などがオプションで利用できる。またドメイン名は、共用サーバー、専用サーバーともに複数ドメイン、マルチドメイン、サブドメインの利用が可能だ。ドメ

イン名の持ち込みや持ち出しについても制限はない。ドメイン名の取得は、jpドメインの場合で取得と1年目の維持費用として1万円、翌年以降は維持費用が年額5,000円で利用できる。

特筆すべきは、引越しサポート用のツールを用意している点だ。FTPツールを使うことなくサーバーの乗り換えができるほか、PHPファイルなどは移行先で設定変更が必要になるものの、専用のコントロールパネルを使うため手順は簡単。

また乗り換えユーザーに嬉しい料金設定にも注目したい。もともと初期費用と加入月の月額利用料が無料であることに加え、1月13日からは、専用サーバーサービスの「専用サーバー200」において、読者特典としてプロモーションコード「IM0403」を記入すれば、新規申し込みも含めて先着200名に限り月額利用料がさらに1か月分無料になるキャンペーンを行っている。ほかにも、Kagoya Internet Routing提供の専用バナー広告からユーザーが加入申し込みをした場合には、キャッシュバックを行うサービスを実施中で、これらの特典をうまく利用するといいたいだろう。

レンタルサーバー契約内容の確認

	共用サーバー	専用サーバー
申し込み方法	サインアップ(クレジットカード)/書面(銀行・クレジットカード)	
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	受理当日または翌営業日	72時間以内
最低利用期間		なし
試用期間と制約		なし
解約の申請方法と受付期間	書面/毎月20日までに到着したものを月末解約	
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)		なし
上位の契約(コース変更など)のときの手数料		なし
利用料金の支払い方法	クレジットカード/口座振替	
利用料金の支払い単位		月額払い
独自ドメイン取得代行の可否	可(一部取得不可ドメインあり)	
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ユーザー名義/10,000円	
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可/移行費用不要	
問い合わせ方法と時間	メール/電話 平日10:00～17:00	

問い合わせ先

カゴヤ・ジャパン株式会社

TEL 0774-64-6660 平日10:00～17:00

support@kagoya.net

レンタルサーバーを使ったサイト運営を提案するポータルサイト開設

レンサバ本舗.com

<http://www.rensaba.com/>

「レンサバ本舗.com」では、グローバルメディアオンライン(GMO)が提供する月2,880円の低価格コースから専用サーバーを使ったハイエンドコースまで幅広いサービスをわかりやすく紹介する。レンタルサーバーのことならここにおまかせ!

共用サーバーでも24時間電話対応 充実したサポートと高い信頼性が売り

GMOはこれまで専用型サーバーの「まるごとserver」や複数のサイトがサーバーを共用する「BROAD SERVER」など各種のレンタルサーバーを提供し、すでに10万を超えるユーザーを獲得している。しかし、サービスメニューがあまりに多様で、ユーザーの立場としては自分に最適のサービスを選びにくいという欠点を抱えていた。

そこでGMOは昨年9月に「レンサバ本舗.com」というレンタルサーバーのポータルサイトを開設した。個人やSOHO向けの低価格の共用レンタルサーバーから、大規模サイトにも対応する専用レンタルサーバーまで、ここを訪れば目的に合ったサービスが容易に探せるような工夫が施されている。また、ネットショップの立ち上げ方やアクセス数の増やし方などサイト運営のノウハウも紹介されているので必見だ。

GMOが提供するレンタルサーバーで注目したいのが充実したサポート体制だ。サーバー事業を担当する領家 航氏は「もっとも低価格な月2,880円のイージープラン

でも、24時間の電話サポートを提供している」と語る。昼間は別の仕事をしていて、夜にならないとサーバー管理ができないユーザーでも十分なサポートを受けられる。さらに信頼性の高さも特徴で、サーバーはNTTネットワークセンター内に設置され、24時間の有人監視体制を敷いている。

ほかにクレジットカード決済やデータベース構築を支援するオプションサービスを提供するほか、サーチエンジン登録代行などの集客を支援する手段も用意する。領家氏によると「サーチエンジン登録代行サービスを使ってアクセス数が急激に伸び、上位のコースへ移行されたサイトもある」という。レンタルサーバーをビジネスに活用したいユーザーにはぴったりだろう。

乗り換え時の初期費用と サーバーのアップグレードは無料

GMOのサービスを新たに契約するユーザーの内訳を見ると、新規にサイトを立ち上げるユーザーと、他のレンタルサーバーから乗り換えてきたユーザーとがほぼ半々の割合だという。乗り換えの比率が高い



グローバルメディア
オンライン株式会社
ドメイン・サーバー
カンパニー
領家 航氏

のはサービスの充実ぶりに加え、乗り換えの場合は初期費用が無料になるという特典が用意されているためと思われる。初期費用が無料になるのは一時的なキャンペーンではなく、今後も期限を設けずに続けられる予定だ。

このように乗り換えユーザーを重視している証しの1つとして、レンサバ本舗.comの中に乗り換えの手順を詳細に解説したページを設けていることがある。手順がわからないためにサーバーの乗り換えに尻込みしていたユーザーにとっては参考になる情報だ。

また、共用サーバーから専用サーバーへなど、手数料なしで上位のコースへアップグレードできる点も見逃せない。つまり、最初は低価格の共用サーバーで契約し、その後の状況を見ながら専用サーバーへ手数料がかからずに移行できるわけだ。

ウェブサイトの新たな可能性を追求するために乗り換えを考えているユーザーにとって、GMOのレンタルサーバーはサービス内容や品質はもちろん、受け入れ体制の面でも信頼をおける。

レンタルサーバー契約内容の確認

	BROAD SERVER(共用)	まるごとserver(専用)
申し込み方法	サインアップ / 電話 / FAX	サインアップ / 電話 / FAX
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	最短3営業日(新規) / 1週間程度(乗り換え)	最短2営業日
最低利用期間	1年	1年
試用期間と制約	なし	1か月の試用期間あり
解約の申請方法と受付期間	書面 / 2か月前に通知	書面 / 3か月前に通知
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	乗り換え時は無料	割引等は行っていない(80,000円)
上位の契約(コース変更など)のときの手数料	無料	有料(30,000円~)
利用料金の支払い方法	クレジットカード / 銀行振込 / 口座振替	口座振替
使用料金の支払い単位	月額払い	月額払い
独自ドメイン取得代行の可否	可	否
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ユーザー名義 / 取得代行費無料	-
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可 / 移行費用不要	可 / 移行費用不要
問い合わせ方法と時間	メール / 電話 / FAXによる 24時間対応	メール / 電話 / FAX (平日10:00 ~ 20:00)

問い合わせ先
グローバルメディアオンライン株式会社
TEL: 0120-63-6833
(共用サーバー、平日10:00 ~ 19:00)
TEL: 0120-0510-93
(専用サーバー、平日10:00 ~ 20:00)

“なんでもできる”を基本に自由を満喫できるレンタルサーバー

SRS さくらインターネット

<http://www.sakura.ad.jp/>



SRS さくらインターネットのレンタルサーバーはインターネット思想そのままに、ユーザーがあらゆる機能を自由に利用できるのが特徴だ。超高速バックボーンと堅牢なネットワークが支えるサービスは、だれにも満足を与える。

自由・安価・高速が全部手に入る プロに支持されたレンタルサーバー

SRS さくらインターネットのレンタルサーバーが提供するコンテンツは、日本のシェアの8パーセントを誇る。もし、SRS さくらインターネットのネットワークがダウンしたら、いつも見ているページの1割弱が見られなくなる計算だ。それだけに、ネットワークの堅牢さ、バックボーンは同社の生命線である。業務用では最高峰のシステムズのエーサネットスイッチ catalyst で構成されたネットワークが、合計16Gbpsのバックボーンで大手プロバイダーやJPIX、NSPIX2/3などと接続され、安定したネットワーク運用を実現する。このバックボーン回線速度は日本国内最大規模だ。この1年間で、接続速度を倍加したのだが、今年はさらにこの倍に強化する予定だといからすごい。

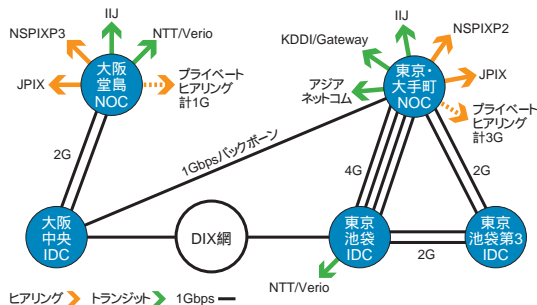
同社のレンタルサーバーの売りは、ほとんどあらゆるサーバーの機能が使える点だ。UNIX使いのパワーユーザー、サーバーを業務に使うプロの間でその自由度の高さ、コストパフォーマンスのよさが高く評価されてきた。「なんでもできる」が同社のサ

ーバーの基本なのだ。価格面でも、「専用サーバサービス」のもっとも安価な組み合わせのベーシックAと10Mスタンダードプランで、初期費用4万9,800円、月額9,800円でまるまる1台のサーバーが利用できる。よほどの性能が要求されるソフトウェアを動かさないかぎり、このスペックで十分なサーバーが提供できると考えてよい。

4種類のサーバー + 3種類のOS 5種類のプランで組み合わせ自由

従来は、プロ向けのサーバーという印象が強かったSRS さくらインターネットだが、最近では、推奨OSであるFreeBSDよりも、Linux、Windows 2000 Serverを用いて簡単に管理しているユーザーが増えているという。Linux、FreeBSDにはブラウザで設定して管理できる「Webmin」がインストールされており、UNIXに強くない人でもサーバー管理の心配はない。もちろん、UNIX好きのユーザーは、これまでどおりroot権限が提供されるので、コマンド

SRS さくらインターネットのバックボーン図



合計16Mbpsのバックボーン。同社は独自IXであるDIXも運営して、各地のプロバイダーを接続している。

ラインでのサーバー管理も自由自在だ。また、Windows 2000 Serverではリモート管理ができ、慣れ親しんだウィンドウズでの管理ツールでサーバーを運用可能だ。

「アクセス制限に引っかかったり、サーバーの負荷が高くなったりして他のレンタルサーバーを追い出されたユーザーが、乗り換えて申し込まれるケースが結構ある」と代表取締役社長の笹田亮氏はいう。SRS さくらインターネットは引っ越し先として選ばれることも多い。これは、OSやサービスプランを自由に組み合わせられる点とサーバーに対する制約がない点が評価されての結果だ。

また、同氏によると、契約してからの専用サーバーの運用開始日は、標準的な日数よりも前倒して実際には2日程度で提供できるように努力しているという。急な引っ越しでも問題なく進められるだろう。

トップクラスの超高速バックボーン、コストパフォーマンスのよさ、そして何よりも自由を謳歌できるサーバーは満足できるに違いない。

問い合わせ先
エスアールエス・さくらインターネット株式会社
TEL 0120-775-664
(平日 10:00 ~ 18:00)

レンタルサーバー契約内容の確認

	専用サーバサービス
申し込み方法	オンラインサインアップ / 書面
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	5 ~ 10 営業日
最低利用期間	2 か月
試用期間と制約	なし
解約の申請方法と受付期間	オンラインフォームまたは書面 / 当月20日締め翌月解約
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	49,800 円 ~
上位の契約(コース変更など) ときの手数料	再契約になるため、上位契約の初期費用が必要
利用料金の支払い方法	クレジットカード / コンビニ決済 / 銀行振込 / 口座振替
利用料金の支払い単位	年間払い / 月額払い(月額費用9,800 円 ~)
独自ドメイン取得代行の可否	可
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ユーザ名義 / 属性型jpドメイン 10,000 円(1 年) / 汎用型jpドメイン 7,000 円(1 年) / gTLDドメイン 15,000 円(2 年)
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可 / 移行費用不要
問い合わせ方法と時間	メール / メールフォーム / 電話 平日10:00 ~ 18:00

「接客業」を信条に安心のサポートとリーズナブルな価格が魅力

CsideNet

<http://cside.jp/>

CsideNetのレンタルサーバーは、安心のサポートとリーズナブルな料金で、初心者からプロまで幅広い支持を受けている。高性能なウイルスメール対策を全ユーザーに無償提供するなど、セキュリティに対しても積極的な取り組みを見せる。

親切かつ迅速な対応を心情とする サポートには絶対の自信あり

「レンタルサーバーサービスは、一種の接客業でありサポートが我が社の最大の財産」と独自の哲学を披露するのは、有限会社シーサイドネット代表取締役の小尾英樹氏。安心のサポート体制とリーズナブルな料金を売りに、主にユーザー間の口コミによって創業から4年ほどで1万2000ユーザーを集め、今もなお成長している注目のレンタルサーバーが、CsideNetだ。

冒頭の小尾氏の言葉どおり、同社が人気を得ている理由は、手厚いサポートにある。同社では、ユーザーからの質問において責任の所在を明らかにする意味で、担当者制を導入している。サポートはメールでの問い合わせが基本だが、質問にはその担当者が責任をもって回答する。また、担当者が不在の場合でも代替りの担当者が迅速に対応するバックアップ体制も用意しているので、さらに安心だ。事実、設定などの一般的な質問には、2～3時間程度でなんらかの回答を返しているという。

レスポンスの早さだけでなく、サポートの中身についても自信を持っており、「返

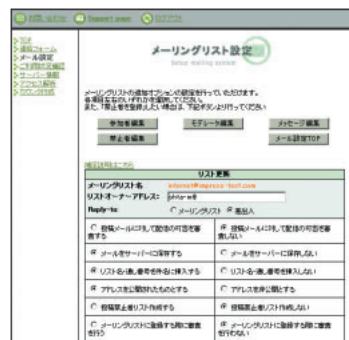
信用のテンプレートは一切使っていない。各質問ごとに、ユーザーのスキルなどを判断しながら担当者がそのつど文章を作成してメールを返信している(同氏)。ここまで気を遣ったサポートをするレンタルサーバー事業者は珍しい。

また、ユーザーが管理運営を行う際の使い勝手のよさも追求している。独自に開発した「コントロールパネル」がそうだ。メールの各種設定、利用状況の確認、サーバー情報など、さまざまな設定をブラウザを使って、初心者にも理解しやすいインターフェイスで行うことが可能だ。

さらに、ネットワークの快適性にも自信を持っていて、「1Gbpsの回線を用意しているが、実際には100Mbps程度の帯域しか使っていない(同氏)と語る。

初心者から企業向けの情報発信まで 対応した多彩なコース

サービス内容は、大きく3つに分かれている。入門者用に位置付けられる「CSIDE NET」は、サブドメイン型のレンタルサーバーサービス。月額750円で、ディスク容量100MB、メール容量50MB、CGI/PHPな



自社開発のコントロールパネル。写真は、メーリングリスト設定画面。

どの利用が可能だ。

また、独自ドメイン名での情報発信を希望するユーザーには共用型レンタルサーバーサービスの「Cside 2ND」が用意されている。月額1,800円で、300MB(メールを含む)と十分なディスク容量が確保される。4,000円～1万円の費用でドメイン名の取得手続きも代行してくれる。現在、12か月契約で申し込みした場合に初期費用が無料になるキャンペーンを実施している。

データベースに連動したサービスや独自のソフトウェアを動かすような本格的な情報発信を目指すユーザーには、専用サーバー型の「CSIDE ANNEX」が用意されている。初期費用13万5000円(キャンペーン価格)月額2万6000円(転送量課金制)で、Pentium -S / 1.13GHzを搭載したRedHat7.2で動作するサーバー(メモリ521MB、HDD80GB)を使用できる。

またウイルスメール対策は昨年12月より全ユーザー向けに無償で提供している。さらにこの春からは、高いセキュリティを確保した企業向けのサービスを開始するほか、電話によるサポートも開始する予定だ。

レンタルサーバー契約内容の確認

	Cside2ND	CsideANNEX
申し込み方法	オンラインサインアップ	
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	1～2営業日	約4週間(オプションで2週間に)
最低利用期間		なし
試用期間と制約		なし
解約の申請方法と受付期間	メール / 月末締め翌未解約	
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	0円(12か月契約の場合)～	135,000円
上位の契約(コース変更など)のときの手数料	無料	
利用料金の支払い方法	クレジットカード(3か月契約) / 銀行振込	クレジットカード(月額払いのみ) / 銀行振込
利用料金の支払い単位	3か月、12か月	年間払い / 月額払い
独自ドメイン取得代行の可否	可	
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	CsideNetまたはユーザー名義 / 料金はドメインごとに異なる	
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可 / 移行費用不要	
問い合わせ方法と時間	メール	

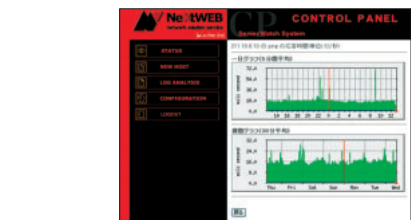
問い合わせ先
有限会社シーサイドネット
info@cside.jp

レンタルサーバーカタログ

共用サーバーでも本格SSLが使用可能な強力レンタルサーバー

NeXtWEB

<http://www.next-web.ad.jp/>



ユーザー自らがオンラインでサーバー管理ができるコントロールパネルを用意する。画面は、1週間のサービス動作状況をグラフ表示したもの。

ネクストウェブは、“使う人寄り”の視点から技術的知識のないユーザーも扱える平易なコントロールパネルを用意。個人から法人まで幅広いユーザーをターゲットにした共用サーバー「VirtualWeb」と専用サーバー「integral」を提供している。

本格SSLに対応して

複数ドメイン利用でホスティングも可能

ネクストウェブでは、共用サーバーサービス「VirtualWeb」と専用サーバーサービス「integral」の2種類のレンタルサーバーサービスを提供している。

VirtualWebでは、利用できる機能やディスク容量の違う3種類のコースを用意し、すべてのコースでメールアドレス数が無制限、ウイルスチェックが無料だ。最上位コースの「VirtualWeb Business」では、オンラインショップの開設などに欠かせないCA(認証局)公開キーを認証局のソート社からドメインごとに取得する本格的なSSLが利用できる。CSRキー(利用サーバー独自の認証キー)の作成や申請、Apacheの設定を代行するSSL代行サービスは別途オプションで用意している。

integralでは、使用ハードウェアのスペックごとに3種類のコースを用意。初期費用がそれぞれ異なるものの、使える機能はすべて同じで月額料金が2万9,800円となっている。回線帯域は標準で512kbpsを

保証し、オプションにより512kbps単位で増速できる。ウイルスチェックはサーバー単位で月額8,000円。複数ドメインも利用でき、「コントロールパネルを使えばドメイン名を入力するだけで一度にネームサーバー、メールサーバー、ウェブサーバーを設定できる」とのことで、初心者にも安心して使えるのが売りだ。デザイン会社が顧客に提供する用途としての利用も多いという。ちなみに、OSはともにFreeBSDとなっている。

共用サーバーなら

ドメイン持ち込みで即日設定可能

基本のソフトウェアのアップデートやサーバーの管理はユーザー自らコントロールパネルから行え、手軽に対応できるだろう。また、サーバーの構築や運用、管理はすべてオプションで代行サービスを用意している。

integralのハードウェアのスペックは、もっともベーシックなTypeAでCPUがCeleron 1.7GHz、メモリーが512MB、

TypeBとTypeCは共通でCPUがPentium 4 2.53GHz、メモリーが1GB。ディスク容量はすべて120GBと共通だが、TypeCのみ120GBハードディスクを2つ使用するIDE RAID構成で、速度や信頼性を要求するユーザー向けのスペックとなっている。

2週間の試用期間を用意するほか、すべてのコースで運用開始月の月額料金が無料となっているので、レンタルサーバーを引越す際に、移行元と移行先で二重に料金が発生することはない。ドメイン名は持ち込むことも可能だし、レンタルサーバーの申し込みと同時に取得もできる。ドメイン名の持ち出しについても制約はない。

移行スケジュールは、VirtualWebはドメイン名を持っている場合で午前中に申し込みれば午後、integralの場合は入金確認後パスワードの郵送にかかる4~5営業日後に手続きが完了する。ただし、integral TypeCのみ受注してからハードウェアを用意する関係で、手続き完了までに約1か月かかる。サーバーの引越しに関する情報をウェブサイトに掲載しているので、そちらを参考にするといいだろう。

レンタルサーバー契約内容の確認

	VirtualWeb	integral
申し込み方法	申し込みフォームからオンラインサインアップ	
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	ドメイン取得済みの場合は1営業日、ドメイン取得済みの場合は5営業日(書類が必要な場合を除く)	入金確認後、5営業日以内 (TypeCは1か月)
最低利用期間	2か月	6か月
試用期間と制約	運用開始後、2週間以内ならリンクオフ可	
解約の申請方法と受付期間	書面にて行う 当月10日までの到着分で当月末解除	
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	2月末までキャンペーン中につき無料	
上位の契約(コース変更など)のときの手数料	初期設定費用が必要	
利用料金の支払い方法	クレジットカード / 銀行振込 / 口座振替	銀行振込 / 口座振替
利用料金の支払い単位	月額払い	
独自ドメイン取得代行の可否	可	
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ユーザー名義 / 属性型JPDドメイン10,000円、汎用型JPDドメイン7,000円、gTLDドメイン7,000円	
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可 / 弊社にてドメイン管理をする場合でgTLDドメインのみ5,000円(1年分の更新費含む)	
問い合わせ方法と時間	メールフォーム / 電話 平日10:00 ~ 18:00 / FAX 24時間365日	

問い合わせ先

ネクストウェブ株式会社

TEL 03-5649-3700

(平日 10:00 ~ 18:00)

FAX 03-5649-3701

レンタルサーバーカタログ

月々250円から始められる手軽&機能充実のレンタルサーバー

ロリポップ! レンタルサーバー

<http://lolipop.jp/>

ロリポップは、初心者ユーザー歓迎のレンタルサーバーだ。低価格ながらサーバー負荷の高いblogサイトの立ち上げもできるパワーフルさに加え、新たに年額660円からの独自ドメインの取得と無料のショッピングカート機能を開始した。

ポップでかわいい見た目と裏腹に機能はマニアも納得の充実ぶり

ロリポップは現在会員数5万人を誇るレンタルサーバーサービスだ。1アカウントあたりの割り当て容量が200MBでCGIやPHP、sendmail、MySQLをサポートしており、今流行のblogサイトを立ち上げることもできる。初心者でも簡単にウェブサイトを作れるように、ホームページの作成サポート機能とカウンターや掲示板、チャット、お絵かきBBSなどのCGIはあらかじめ用意されている。ドメイン名は「lolipop.jp」「chu.jp」「egoism.jp」をはじめとする50種のサブドメインから好みのものを選択できるほか、独自ドメイン名(持ち込みOK)を使うことができる。

当初から女性をターゲットにしていたということもありウェブサイトでは「きもかわいい」キャラクターが出迎えてくれるなどソフトでイージーなイメージが強いが、普通ならオプション扱いとなるような数多くの機能が基本料金のみで利用できたり、続々と登場するインターネットの新技术に迅速に対応したりするなど、パワーユーザーのニーズにも応える懐の深さもある。そのうえ、

月額250円(6か月以上申し込み時)という利用しやすい価格設定も魅力だ。小学生が利用するケースや、テストサイトの立ち上げに利用するケースもあるという。

この価格でここまであれこれと充実していると不安になるのがサポートだが、ほぼ1日以内に返答しているというメールサポート以外にも、平日は23時までリアルタイムチャットで対応するなど、レスポンス重視。これらのサポートも基本料金のみで提供している。サポートサービスはチャットも含めて加入前でも利用できるので、事前に確認しておきたい人は気軽に利用するといいい。10日間の試用期間を用意しているため、実際に自分で触って確かめることもできる。

独自ドメイン名の取得代行とショッピングカート機能を新たに追加

ロリポップが低価格と機能の充実を両立できるのは、すべての機能を自社開発していることが大きいようだ。「自社で開発することで、いちちはやく顧客の要望に応じて新機能を追加できるし、問題があればすぐに修正できる」(代表取締役社長 家入一真



有限会社 paperboy & co.
代表取締役社長 家入一真氏

氏)というわけだ。そんなロリポップが今後開始を予定しているのが、独自ドメイン名の取得代行サービス(ムームードメイン)とショッピングカート機能の追加だ。

独自ドメイン名の取得代行サービスは、1ドメインあたり取得維持費用が年額660円~2,800円と格安の料金設定だ。それでいて、ドメインの名義を個人名義にするかムームードメインに預けるか選択できるし、取得したドメイン名は他社のレンタルサーバーでも自由に使えるなど、安価な独自ドメイン名の取得にありがちな制約が一切ない。「.com」「.net」「.org」など18種類のTLDで好きな空きドメインを取得できる。「.jp」は今後追加される予定だ。

ショッピングカート機能は、初期費用、月額費用とも無料のクレジットカード決済機能付きのもの。コンビニ決済や宅配便との連携も準備中で、今後はさらに簡単で便利なネットショップ構築環境が整う。

このほか、レンタルサーバーの乗り換えユーザー向けに、初期費用3,000円が半額の1,500円になるキャンペーンを行っている。浮いたお金でドメイン名を1つ取れることを考えると乗り換えユーザーならではの有効に活用したいところだ。

レンタルサーバー契約内容の確認

ロリポップ!レンタルサーバー	
申し込み方法	申し込みフォームからオンラインサインアップ
申し込みから実際に利用できるまでの期間	即日
最低利用期間	1か月
試用期間と制約	10日間の試用期間あり
解約の申請方法と受付期間	コントロールパネルで契約終了日まで
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	通常3,000円でサーバー乗り換えの場合は1,500円
上位の契約(コース変更など)ごときの手数料	-
利用料金の支払い方法	クレジットカード/コンビニ決済/銀行振込/郵便振替
利用料金の支払い単位	1、3、6、12か月払い(6、12か月払いは割引あり)
独自ドメイン取得代行の可否	ムームードメイン(URL http://muumuu-domain.com/)で可
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ムームードメイン、ユーザー名義のどちらでも可
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可/更新費用の事前払いが必要(ムームードメイン URL 参照)
問い合わせ方法と時間	メール/ライブチャット 平日10:00~23:00 土日祝10:00~19:00

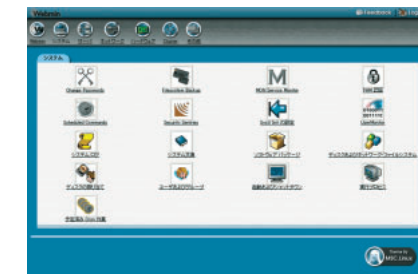
問い合わせ先

有限会社 paperboy & co.
<http://lolipop.jp/> (メールフォームあり)

深夜OKのメールサポートと各種バックアップ機能を充実

WADAX

<http://www.wadax.ne.jp/>



標準で利用できるWebminのコントロールパネル。

ワダックスは、低価格ながらバックアップ機能を充実させるなど信頼性向上に力を入れているレンタルサーバーだ。メールのみの対応ながら、深夜でもレスポンスが返ってくるなど、レスポンスタイムを重視したサポートも大きな特徴だ。

余裕のある回線割り当てと 充実したバックアップ機能を用意

共用型のレンタルサーバーサービスは、ハードウェアのスペックやディスク割り当て容量、複数ドメイン名対応などの違いから3つのコースに分かれていて月額料金が1,700円から。サブドメインについては全コース無料で利用できる。

専用サーバーは、CPUがCeleron 1.7GHz ~ Pentium 4 3.06GHz、メモリーが256MB ~ 512MB、ハードディスク容量が40GB ~ 120GB(スペックはオプションで自由に変更可能)で、これらの組み合わせにRAID構成を加えた全9種類のコースから選択できる。こちらは月額1万9,800円から。

サーバー本体は、共用型と専用型ともにケーブルアンドワイヤレスのデータセンターで独自に運用している。OSはRedHat Linux。どちらのサービスも、帯域は100Mbpsの回線を複数のサーバーでシェアする形だが、かなり余裕のある割り当てとなっており「これまで速度についてクレームが来たことはない(代表取締役 和田 大氏)」という。帯域保証は専用サーバーサービスのみオプションで対応している。ウイル

ス対策機能は全サービス共通のオプションで、1ドメイン20ユーザーまで月額380円で提供している。

共用レンタルサーバーには、基本料金にバックアップ機能が含まれている。RAID1によるミラーリングに加えてNAS(Network Attached Storage)サーバーへの1日2回のバックアップ、さらにNASサーバーからDAT(Digital Audio Tape)への長期保存バックアップと三重のバックアップ体制は心強い。専用サーバーサービスではバックアップはオプション扱いになり、ミラーリングからNAS、DAT、CD-R、DVDと各種の方法を選択できるようになっている。

多様なコントロールパネルで 操作性を重視

コントロールパネルは、共用レンタルサーバーは専用のものを提供している。専用サーバーサービスでは、現在のWebminに加え、より平易なPlesk6が今後基本料金のみで利用できるようになる予定だ。また、別途オプションでHDE Controller Linuxの利用もできる。

サポートはメールのみの対応だが、24時

間365日対応で、深夜であってもレスポンスは早い。メールでの返信までにかかる平均時間が公開されており、2003年12月現在で102分だ。また、サーバーごとのトラブルや負荷情報も常にウェブサイトで公開している。このように、ユーザーが知りたいと思われる情報を包み隠さずに公開することでユーザーの信頼を得ている。

現在、共用レンタルサーバーのブロンズコースの場合のみ、1年契約で初期費用が無料になる乗り換えキャンペーンを実施している。また、特に乗り換えでなくても、専用サーバーサービスには、契約期間に応じて基本料金が最低0円にまで減額される割引制度も用意されている。ドメイン名は入会時に取得できるのはもちろん、他のレンタルサーバーからの持ち込みや持ち出しも可能だ。ドメイン名の管理だけを依頼することもできる。ここで提示している価格は市場価格によって下落する場合もあるとのことなので、記事作成時点(2004年1月)のものとして認識してほしい。

なお、専用サーバーサービスについては、提供していない機能であっても、要求に応じて個々に見積もりを出すなど追加オプションの形で対応している。

レンタルサーバー契約内容の確認

	WADAXレンタルサーバー	専用サーバー
申し込み方法	オンラインサインアップ	
申し込んでから実際に利用できるまでの期間	最短即日(クレジットカードの場合) / 最短翌営業日(銀行振込の場合)	
最低利用期間	1か月~(契約月数による)	
試用期間と制約	なし	
解約の申請方法と受付期間	書面 / 解約当月10日まで	
初期費用(乗り換えの際に割引等あるか)	3,000円	0円(2年契約)~
上位の契約(コース変更など)のときの手数料	無料	
利用料金の支払い方法	クレジットカード / 銀行振込 / 口座振替	
利用料金の支払い単位	1か月、3か月、6か月、1年、2年	
独自ドメイン取得代行の可否	可	
独自ドメイン取得時の名義と取得代行費	ユーザー名義 / 料金はドメインごとに異なる	
独自ドメイン移行の可否と移行費用	可 / 移行費用不要	
問い合わせ方法と時間	メールフォーム	

問い合わせ先
株式会社ワダックス
<http://www.wadax.ne.jp/> (メールフォームあり)

50以上の豊富な基本機能と西日本最大規模のデータセンターで安心

smartSQUARE

<http://www.smartsquare.ne.jp/>

smartSQUAREは、コストパフォーマンスに優れた共用サーバーと面倒な管理運用まで任せられる専用サーバー、大量のアクセスが短期集中するキャンペーンサイト向けサービスなど、確かな技術力でユーザーの幅広いニーズに応えている。

基本機能は50以上 信頼の環境と高い満足度が得られる

smartSQUAREの共用サーバーサービスは、メールアドレス数やウイルス対策機能の有無などによってきめ細かくコース設定され、ユーザーの利用形態に合わせて無理なくサービスが選択できる。全コースで50以上の基本機能が使えるのが特徴で、コースを変更しても使い勝手が大きく変わらないのは嬉しい。独自CGIやPHPに対応し、アンケートやメールマガジンなどの標準CGIも用意されており、各機能はコントロールパネルから簡単に設定できる。月額基本料金は3,000円から。また、

オプションでPostgreSQLやMySQLのデータベース機能も利用できる。

一方、専用サーバーサービスは、セキュリティ対策や故障復旧などの運用管理を任せられるのが特徴だ。帯域も専用で0.5Mbps～10Mbpsから選択できる。

smartSQUAREのサーバーは、アクセス数の多いメディア系サイトや映像配信サイトを多数収容している西日本最大規模の自社データセンター内に設置され、24時間365日の監視体制で運用されている。こうした信頼性が評価されて、他社のレンタルサーバーへの乗り換え解約率が1%以下という実績を持つ。



現在、4月末まで全コースで初期料金が無料となるキャンペーンを実施しており、なおかつ共用サーバーの「スタンダード」シリーズでは、月額基本料金が2か月分無料になる。さらに、乗り換えユーザーにはオプション機能(SSL・PostgreSQL・MySQL・映像配信)の初期費用まで無料と、かなりお得だ。

問い合わせ先
エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社
TEL 06-4709-3838
(平日 10:00～12:00、13:00～18:00)
info@smartsquare.ne.jp

高信頼で障害に強いネットワーク環境で手間いらずのレンタルサーバーを提供

ファーストサーバ

<http://www.fsv.jp/>

ファーストサーバはJQA(日本品質保証機構)認定のデータセンターを自社で運営し、プロバイダーと同じ階層にネットワークを構築することでトラブル発生時に自社で経路変更の対応ができるなど、信頼性が高く障害に強い環境を実現している。

サイボウズをはじめとした ビジネスツールが豊富なサーバー

ファーストサーバのレンタルサーバーサービスには、共用サーバーとエンタープライズ(専有サービス)の2種類がある。共用サーバーサービスは、ディスク容量(15MB～1500MB)と利用できる機能が異なる6つのコースに分かれている。一方、エンタープライズサービスは、いわゆる専用サーバーとは違い、ファーストサーバ側でroot権限を預かり運用管理も含めて提供するものだ。コースはディスク容量(8GB～32GB)で3つに分かれていて、初期費用は同額だが月額料金が異なる。

サイボウズとの協業によりグループウェアのASPサービスを提供しているため、社内において情報共有環境が簡単に構築できる。「企業の部門単位で導入されることもある(企画部 販売促進企画グループ 山崎菜穂氏)という。またほかにも、情報共有ツールとして、IPフィルタリングとID・パスワードによるアクセス制限機能付きのファイル共有機能(FTP)も用意されている。

ウイルス対策機能はオプションだが「迷惑メールフィルタ」は全コース標準で利用可能。複数ドメインは参照先がユニークなマルチドメインのみオプションで対応する。

乗り換えについてはボタン操作で移行



ができる引越サポートツールが便利。また、ドメイン名移転の際のDNS変更をサポートする専用電話窓口を用意している。

ファーストサーバは試用期間こそ用意していないが、加入月の月額料金が無料のため課金発生は翌月からとなっている。また加入と同時にドメイン名を取得する場合はドメイン名の取得維持費用が初年度分無料となるキャンペーンを現在実施中だ。

問い合わせ先
ファーストサーバ
インフォメーションセンター
TEL 0120-414-5388 平日 9:00～17:00
info@fsv.jp



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp